

平成30年度 第3回 長浜市総合教育会議 出席者名簿

1 構成員

役 職	氏 名
市 長	藤 井 勇 治
教 育 長	板 山 英 信
教 育 委 員	井 関 真 弓
教 育 委 員	西 橋 義 仁
教 育 委 員	西 前 智 子
教 育 委 員	美 濃 部 俊 裕

2 講師

役 職	氏 名
滋賀文教短期大学 国文学科長 教授 (長浜市子ども・子育て支援推進協議会会長)	神 谷 昌 史

3 事務局

所 属 ・ 役 職	氏 名
教育部長	米 田 幸 子
教育委員会事務局次長	横 尾 博 邦
教育委員会事務局次長兼教育総務課長	岩 田 健
教育改革推進室長	土 田 康 巳
教育指導課長	伊 藤 浩 行
教育総務課課長代理	今 井 健 剛
教育総務課主査	大 石 文 哉
総合政策部長	古 田 晴 彦
総合政策課課長	横 尾 仁
総合政策課課長代理	柴 田 拓 也
総合政策課主事	田 中 沙 知

平成30年度 第3回 長浜市総合教育会議 次第

日時：平成31年1月15日（火）13時30分

場所：長浜市役所 本庁舎3階 特別会議室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 意見交換

テーマ：子どもの心を耕す日本語教育について

（1）講演

講師：滋賀文教短期大学 国文学科長 教授 神谷昌史氏

（2）意見交換

4 その他

5 閉 会

【配布資料】

・資料1

子どもの「心を耕す」日本語教育

神谷昌史（滋賀文教短期大学）

1) はじめに

＊「心を耕す」 ラテン語 colere → culture（耕す → 心を耕す → 教養・文化）

＊教養・文化は言葉によってしか獲得されない。

＊母語としての日本語（母語／母国語）

資料①「文化は人が言葉で作っていく。言葉の程度が低いなら、程度の低い文化しか生まれない。人間というものに関するさまざまな理解が深まらない。多くの異なった人たちの存在を認めるといふ、スタートの部分すら出来てはいかない。可能なのは、せいぜいが現状維持ではないか」（片岡義男『日本語の外へ』）

資料②「母語 一般に個人が最初に習得する言葉。子どもが成長の過程で母親など身近な人々から習得する言葉は、本人にとって最も自由な表現の手段であり、思考や人格と結びついた、代替の不可能な言語という理由で、言語心理学や言語教育などでは重視されている」（百科事典マイペディア）

2) 保育の現場から

＊子ども…家族関係・家庭環境による言葉の違い

言葉＝環境

＊「人間は環境の子である」（ロバート・オーエン）

周囲の環境が子供に大きな影響を与え、人格を形成していく

＊言葉がけの大切さ

＊読み聞かせ

資料③「生まれてくる子はことばをまったく知らないが、ほとんど例外なく四十カ月以内に、言葉を覚える。／覚えるといっても、しっかり教えてくれる“先生”のいることは稀である。まったくわけのわからぬことばを聞いていて、子どもは、ほとんど独力でことばをみにつける。ときに話しかけられることもあるが、多くはまわりの話すことばを聞いているのである。どういう意味かなど教えられることはない。それでいて、そのうちに、子どもは言葉に意味があることをおのずから知る。そして自分でもことばを発するようになる。すべて自力である」（外山滋比古『幼児教育でいちばん大切なこと』）

3) 大学の現場から

＊「若者の活字離れ」「SNS でのコミュニケーション」

＊学力は落ちているのか？

測りにくい学力（思考力、判断力、表現力）

読書時間の減少

プレゼンテーション・ディベート…小学校から

＊若者との会話 3 タイプ

言葉の使い分け

＊アクティヴ・ラーニング

＊「聴く力」の不足

4) 社会と言葉

＊言葉の種類 ①（どこ出身の）地域に根ざした言葉（方言）と共通語（標準語）

の観点 ②（どんな人が）話し手に根ざした言葉（性別・年齢その他）

③（どんな人に）聞き手に合わせた言葉（親疎関係・上下関係）

④（どんな状況で）状況に合った言葉

（どこで＝場面／何について＝話題／何のために＝機能）

⑤（どんな方法で）伝達方法に合った言葉（話し言葉・書き言葉）

〔石黒圭『日本語は「空気」が決める』（光文社新書）より〕

＊どんな人が、どんな人に対し、どこで、何について、何のために、どんな方法で、言葉を発するのか。

＊内面の言葉と社会に向けた言葉